

## (5) 東海



東海地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

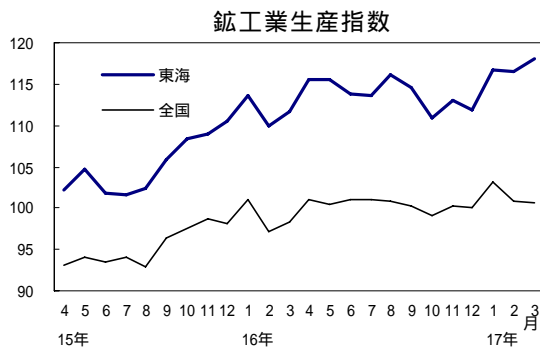
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成 17 年 2 月）	今回（平成 17 年 5 月）	
鉱工業生産	このところ <u>緩やかに減少</u>	増加	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は増加している。

輸送機械は、完成車の国内向けが新車効果により堅調に推移するとともに、海外向けが北米向けなどを中心としたおう盛な需要により好調であることから増加している。なお、自動車部品も引き続き高水準で推移している。一般機械は、金属工作機械が国内外の一般機械向け、自動車関連向けを中心に、引き続き高水準で推移したことなどから、増加している。電気機械は、制御機器が自動車関連向けを中心に高水準で推移したものの、主に海外向け半導体関連に弱い動きが見られたことから、おおむね横ばいとなっている。窯業・土石は、陶磁器がタイル・飲食器を中心に低調に推移したものの、ファインセラミックスが自動車向けを中心に高水準で推移したことなどから増加に転じている。化学は、自動車関連向けが高水準で推移したことなどから増加に転じている。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成 17 年 3 月の東海および速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

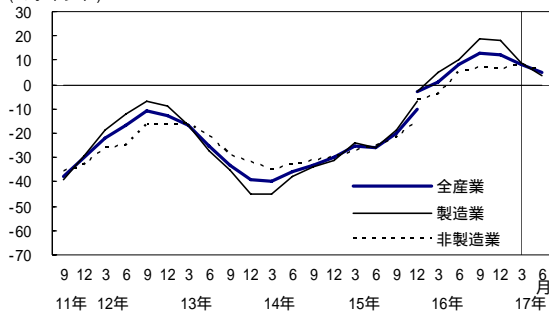
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	33.9	0.7	6.7	1.8	21.3
一般機械	11.3	4.2	2.9	1.6	6.1
電気機械	7.3	5.6	0.7	4.8	15.4
窯業・土石	6.1	0.2	3.5	3.4	2.7
化学	5.4	0.6	7.5	3.9	9.5
鉱工業	100.0	2.5	4.7	1.8	2.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 1~3月期は速報値。  
3. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ縮小している。

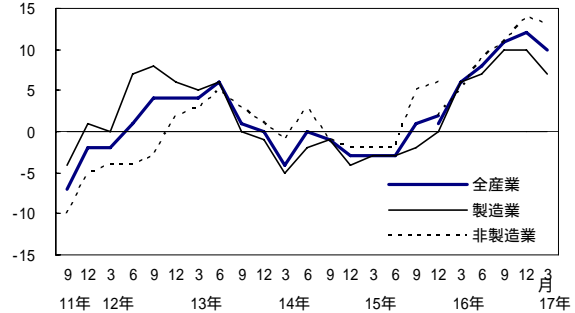
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



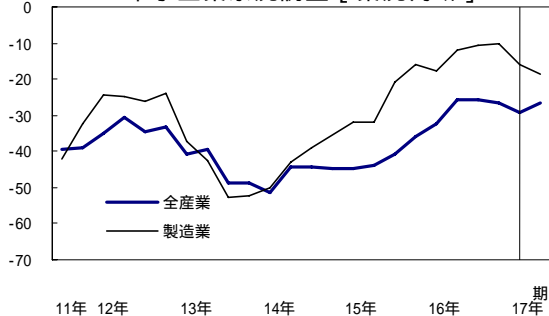
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年6月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。  
中部地区。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「納入業者との値上げ交渉は長引く傾向にある。また、取引業者がフル操業で納期遅延が多々ある一方で、客からの注文は短納期である。そのため、納期が厳しく製造ラインは神経質になっている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

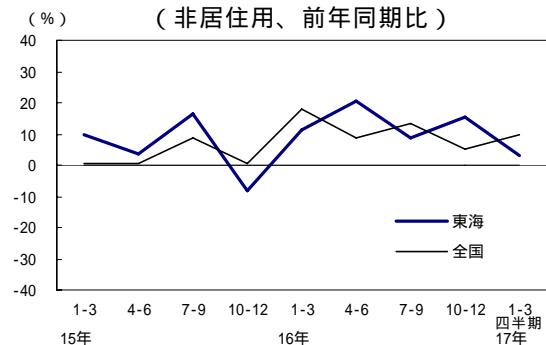
企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績見込み	17年度計画
全産業	12.2 [12.5]	0.7
製造業	23.7 [23.5]	1.1
非製造業	1.2 [1.9]	0.2

(備考)[ ]は前回(12月)調査結果。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



## 2. 需要の動向

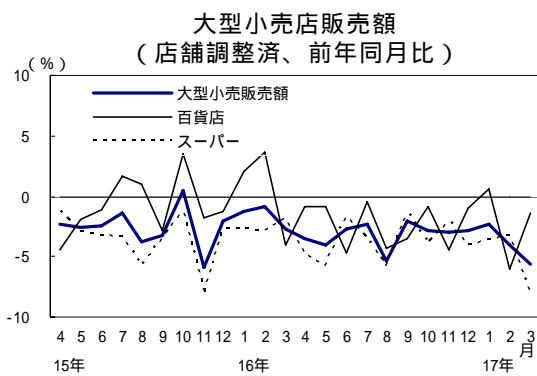
### (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセールが好調だったことに加え、下旬に気温が低く推移し、重衣料に動きがみられたことから、11か月ぶりに前年を上回った。2月は、春物衣料品が不振だったことから、前年を下回った。3月は、各地で商業、娯楽施設がオープンし、人出が分散するとともに、引き続き春物衣料品が不振だったことから、前年を下回った。なお、名古屋市内主要5百貨店の4月の売上高は、前年同月比で6.2%増となっている。スーパーは、1月に衣料品が4か月ぶりに前年を上回ったものの、全体としては期間を通じて前年を下回った。

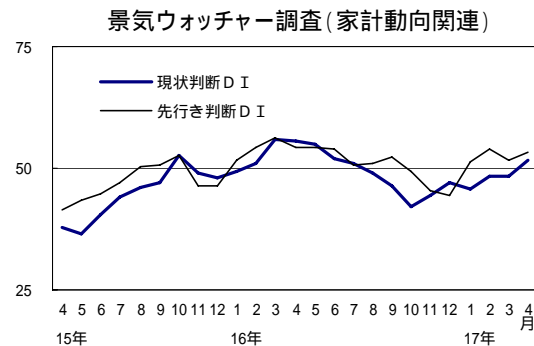
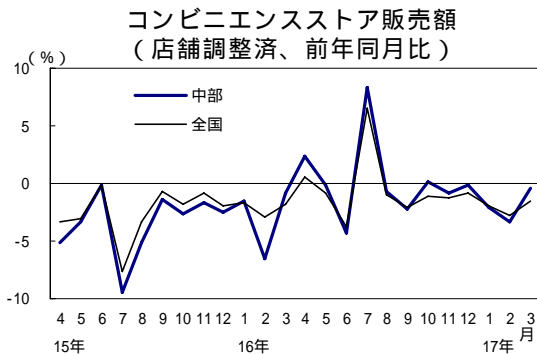
#### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「例年3月の決算月後は来客数が減るが、今月は予想以上に新車目当ての来客数が多い。冷やかしてではなく購入が前提の客が多く、受注率も高い。しかしサービス工場への入庫は減りつつあり、利益は相変わらずとんとんである(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月
大型小売店	3.5	3.2	2.9	3.9
百貨店	2.1	2.4	2.0	2.0
スーパー	4.1	3.7	3.4	4.9
コンビニ	0.8	1.7	0.3	1.9
景気ウォッチャー	54.2	48.8	44.5	47.5

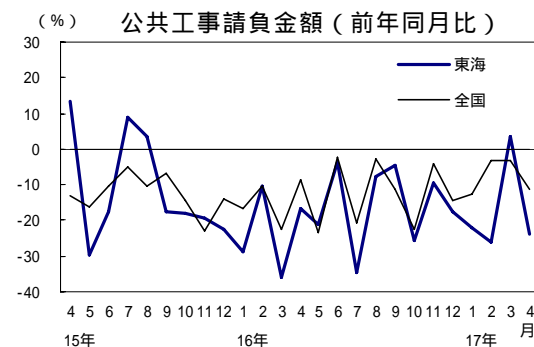
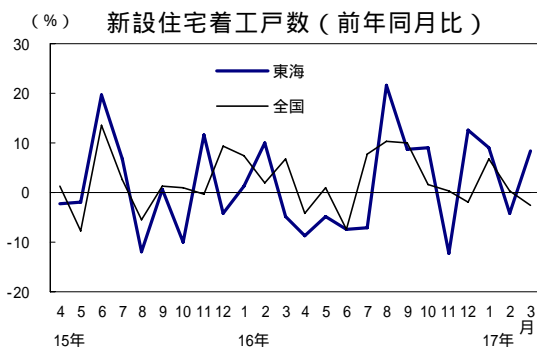
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
中部地区。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



### (2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

### (3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

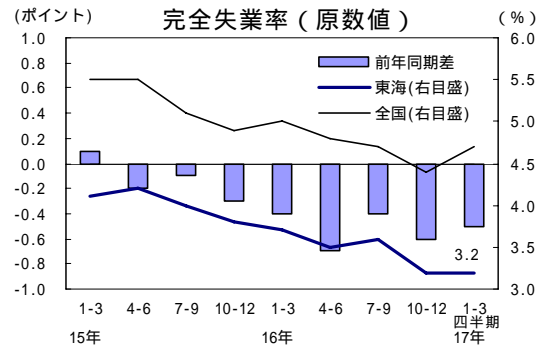
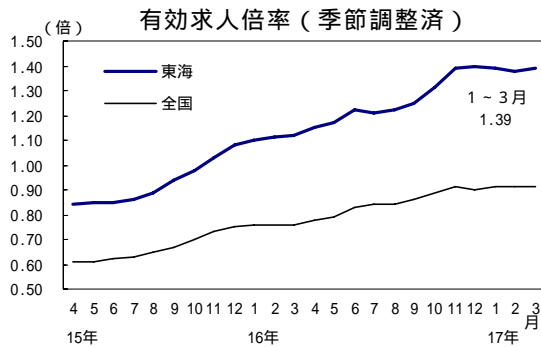


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

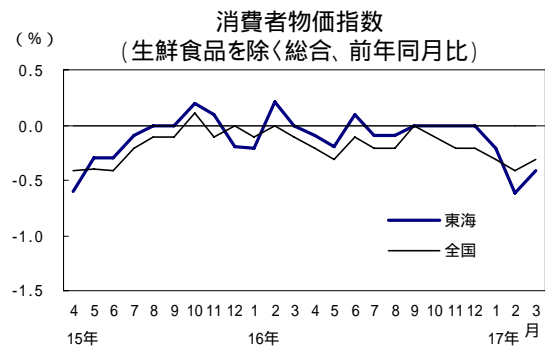
「雇用保険の受給資格者が減少し、求職者も減少している。しかし在職中で転職を希望する者は増加傾向にある（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は横ばいとなっているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年4-6月	7-9月	10-12月	17年1-3月	17年4月
倒産件数	283	290	325	333	100
(前年比)	30.5	17.1	3.3	0.9	3.8
負債総額	879	1,069	3,141	2,480	286
(前年比)	20.4	33.4	23.9	77.1	17.6



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・中小企業でも本業以外の事業や不採算店舗などを整理し採算部門の強化に集中しており、業績は上向きつつある（会計事務所）。

<先行き>

- ・あらゆる業種から求人が入っているため、秋口までは堅調に推移する。ただし、現在の人手が足りないため、急場をしのぎたいといった様子である（民間職業紹介機関）。

景気ウォッチャー調査（合計）

